

非言語性学習障害のA子について

教室に走りこんでくる子がいました。

幼稚園のかばんや帽子を放り出して、戸棚からおもちゃを出します。

そばに行って「おはよう」と声をかけると、新しいおもちゃを出します。

「いっしょに遊ぼう」と声をかけると、次のおもちゃをとりに行きます。

遊んでいるおもちゃに手を出すと「やめて」と言い、次のおもちゃを取りに・・・。

出したおもちゃを「かたづけよう」と声をかけると、プレイルームに行って運動する子でした。

一つのことに集中できる時間が短く、すぐに飽きてしまいます。

関わろうと話しかけると、問いには答えますが、自分の話に変えてしまいます。

指示すると、「今これをしているから」「もっとこれをしたい」と答えます。

しばらく待っていると、ちがうことをはじめます。

さっき指示したことをさせようとする、「前からこれをしたかった」と返事をします。

終わる時間になると、「もう一つ」「もう一つ」と言ってなかなか帰ろうとしません。

この子どもが帰った後は、片付けるのが大変でした。

ことばの教室の様子から、コミュニケーションの問題、注意集中の問題、

生活習慣の問題、多動性の問題を持っているように思いました。

お母さんは、

「家でも同じで、おもちゃは出せばなしで、この子の後についてわたしが片付けている。」

「よく話をするがすぐに話をはぐらかしてしまう。」

「静かなときは本を読んでいるときだけです。」

「もうすぐ小学校に入学するのに、字を書かせると嫌がります。」

と家での様子を話してくれました。

指導をしていると、できないことばかりに目がいてしまいます。

しかし、お母さんの話から

- ・ひらがなが読めること、
- ・読み始めると集中すること

がわかりました。

一度にすべてに取り組むのは無理です。

できていないことの中で、

- ・できそうなことから取り組む
 - ・もうすぐ必要になることに取り組む
- ことにしました。

その子の指導時間には、校舎の入り口で待つようにしました。

教室に走りこんでくるのをとめようと思ったからです。

その子が来ました。

廊下を走ってきました。

「おはよう」と声をかけましたが、すり抜けていきました。

かばんも帽子も放り投げてあります。

まずは、教室の入り口につれていき、「くつをそろえて」と指示しました。

手を払いのけようとするが、しゃがませて靴をそろえさせました。

教室にはいり、「かばんと帽子を大きい机の上において」と指示しました。

いっしょに拾い、机の上におきました。

「くつをそろえて」「かばんと帽子は大きい机の上において」と指示することを続けました。

つぎの指導日は、指示することばを減らし、「どうするんだった」と問いかけの

ことばを増やし、いっしょにするようにしました。

そして次の指導日には、いっしょにすることも減らし、問いかけだけにしていきました。

くつをそろえて、入室し、かばんと帽子を大きい机の上に置くようになるまで1ヶ月ほどかかりました。

「よくできました」とほめるようにして関わりました。

そのほかの時間はあいかわらずおもちゃを出しては遊んでいます。

その間、お母さんと話し、家での様子はどうか聞くようにしました。

子どもが次の行動に移る前に止めて

「一つだけはいっしょに片付けるようにしましょう」

「そして一つ片付けるとほめてあげてください。」と課題を出していきました。

家でも一つですが片付けるようになったころ、教室でも最後に遊んだおもちゃは片付けるように指導しました。

これにも、抵抗がありました。

「遊びたいのに」と言います。

「これしたら遊んでもいい」と聞いてきます。

「もう幼稚園に行く時間だから」

「ことばの教室の勉強は終わり」と言っても聞きません。

泣いて片付けようとしません。

「じゃこれを片付けたら、一つだけ遊んでもいい」

「それが終わったら幼稚園に行くよ」と指示しました。

このとき子どもの行動を止めて、次の行動にうつるには予告することが大切だと思いました。